腸ちふす、ばらちふす及ビ赤痢菌ノ健康 者保菌率ニ就テ

神奈川県立第二衛生試験場 (主任 渡邊 邊博士)

村 野 廉 一

Renichi Murano

(昭和11年12月26日受付)

【内 容 抄 録】

127,372名ノ健康者糞便検査ニ際シテ腸ちふす、ばらちふすA、B及赤痢菌屬ノ保菌率ニ就テ説述セルモノナリ。

目 次

緒 言	結 論
1. 検査材料並ニ實施方法	文 献
2. 検査成績	

緒 言

西歐ニハ腸ちふす並ニ赤痢患者ノ年々歳々減少ヲ見、殊ニ獨逸國ニ於テハ醫學生ニシテ腸ちふす患者ヲ臨床的ニ診斷シタルモノナキトノ話ヲ聞ク、然ルニ日本ニ於テハ如何、年々決シテ是等患者ノ減少ハ思ヒモ依ラザル事ニシテ新タニ傳染病院ヲ建設シテ患者ノ收容ニ之務ムルノ状態ニアリ、各府縣ハ之レガ對策ニ莫大ノ費用ヲ投ジテ防疫ニ孜々タルノ有様ナリ。今靜カニ彼我ノ關係ヲ檢討スルニ、西歐ニ於テハ下水完全特ニ糞便ノ所置ニ關シテ完全ナルアルニ反シ我國ニ於テハ實ニ原始的ナリ。之ハ是等腸内病原細菌跋扈ノ一大原因タルベシ。余ハ我國ニ於ケル腸ちふす、赤痢症ノ猖獗ハ將ニ下水ノ不完全ニ其ノ責ヲ向ケントスルモノナリ、而シテ是等傳染病ノ直接傳播ノ原因ハ種々ノ因子ヲ想定セシムルモ、其ノ最モ大ナル役割ヲ演ズルモノハ即チ健康者保菌テウ事ニ責ヲ向ケントスルモノナリ。吾人ハ夫レガ見地ヨリシテ四季ヲ通ジテ健康者保菌調査ナルモノヲ施行シ居レリ、各府縣ニ於テモ專心コレニ防疫事業ノ大半ヲ傾注シツツアルノ状態ニアリ。目下ノ所吾國ニ於テ下水ノ完備ヲ期セントスルハ相當ノ難事タルベシ、此間ニ於テ防疫ノ急務トシテハ健康保菌者ノ調査ヲ嚴重ニシ、保菌者ニ對シテハ患者ト同様ノ處置ヲ嚴行スルニ於テハ實際上ニ於テ是等傳染病ノ猖獗ヲ防禦シ、漸次撲滅ヲ計ルコトヲ得ベシ。余ハ茲ニ最近ニ吾ガ試験場ニ於テ取扱ヒタル健康保菌者ノ是等病原菌ノ檢出成績ヲ報告シ一般ノ注意ヲ喚起セントスルモノナリ。

1. 検査材料並ニ実施方法

神奈川県下ニ於ケル特殊營業者ヲ検査材料トセルモノニシテ、茲ニ謂フ業態者トハ料理店、飲食店、菓子屋、鮎屋、豆腐屋、氷屋、獸鳥肉商、牛乳搾取者、魚介商、蔬菜果實商、旅館下宿業及ビ遊廓等ヲ指示スルモノナリ。是等業態者ヨリ糞便ヲ採取スル方法ハ衛生課吏員、警察署員並ニ衛生組合役員等ニヨリテ可及的迅速ニ當試験場ニ持參セラレタルモノナリ、採取ヨリ試験場ニ送附セララル迄ノ時間ハ大體7—8時間程度ト規定シアルモ時ニハ24時間ヲ經過セルモノモ相當多數ナリト思惟セラル。周知ノ如ク腸内病原菌ノ検出率ハ主トシテ糞便ノ新舊ニ關係スルモノナルヲ以テ、此點非常ニ注意ヲ拂フベキモノナリトス。理想トシテハ採便直後ナルベキモ是等大多數ノ検便ニ際シテ到底實行困難ノ事ナリ。

検査方法トシテ遠藤氏或ハどりかるすきー氏平板培養基ヲ使用ス、即チ採便罐ニ生理的食鹽水ノ少量ヲ滴下シ楊子ヲ以テ良ク攪拌シ平板上ニ塗布ス、塗布ハ一人ニツキ平板培地1枚ヲ使用ス。當場ニテハ疑似者或ハ疑似者家族、患者恢復後検査ニ際シテハ常ニ3枚ノ平板ヲ使用シ居ルモスクノ如キ健康保菌者検査ニ際シテハ不本意ナガラ1枚ヲ使用シ居レリ。是レハ検査數ノ多數ナルト技術員ノ手不足及ビ費用等ノ點ヨリシテ餘儀ナクセラレ居レリ。塗布後ハ型ノ如ク18時間孵卵器ニ容レ翌日之レヲ検査シ、生物學的並ニ血清學的検査ニヨリテ嚴格ニ各型ヲ分類シ検査スルモノナリ。

2. 検査成績

余ガ茲ニ述ベントスル検査材料ハ昭和9年ヨリ本年8月迄ニ施行セル前記特殊營業者總數127,372名ニシテ、是ガ成績ヲ表示スレバ次表ノ如シ。

第 1 表

検査總數 127,372	ちふす菌屬			合計	赤痢菌屬			合計
	腸ちふす	ばらA	ばらB		異型I	異型II	しゆみつと	
検出數	106	9	46	161	268	155	23	446
検査數ニ對スル 百分率	0.083	0.008	0.036	0.127	0.210	0.121	0.018	0.349
菌檢出數ニ對スル 百分率	17.46	1.48	7.57	26.51	44.16	25.53	3.78	73.47

備考 検査總數 127,372名

検査數ニ對スル百分率ハ小數點4位以下、検出菌數ニ對スル百分率ハ小數點3位以下ハ4捨5入セリ。

今第1表ヲ點檢スルニ検査總數127,372名中ちふす菌陽性ナリシ者161名(0.127%)ニシテ

赤痢菌陽性ナリシ者446名(0.349%)ナリ、赤痢菌陽性率ヲ検討スルニ、井口、大坪、神野氏等ノ警視廳管内ニ於ケル特殊營業者ノ9.83%、及ビ村島氏ノ横須賀市ニ於ケル1.9%ノ成績ニ比シテ低率ニシテ、神野、花輪兩氏ノ1.85%ニ比シテ遙カニ高率ヲ示セリ。次ニちふす屬陽性161名0.127%中腸ちふす菌陽性ナリシモノ106名(0.083%)ニシテ第1位ヲ占メ、ばらB菌陽性者46名(0.036%)ニシテ之ニ次ギ、ばらA菌陽性者ハ僅カニ9名(0.008%)第3位ニアリ。又赤痢菌屬陽性446名中(0.349%)異型Ⅰヲ檢出ジタルモノ268名(0.21%)ニシテ最も多く、異型Ⅱヲ檢出シタルモノ155名(0.121%)ニシテ之ニ次ギ、しゅみつど菌ヲ檢出シタルモノハ23名ニシテ(0.018%)最も低位ニアリ。

腸内病原細菌ノ自然界消失ニ關シテハ相當興味アル現象ヲ發見スルモノナリ、即チ腸ちふす菌屬ニ於テハちふす菌依然トシテ其ノ勢力優勢ニシテ、次ニばらちふすB菌ナリ、ばらちふすA菌ニ至リテハ漸次消失ノ道程ヲ辿リツツアリ。赤痢菌屬ニアリテハ所謂志賀本型菌ガ約十年來ヨリ内地ニ於テ其ノ陰ヲ認メズ、專ラ異型菌ノ跋扈ヲ見ルニ至レルガ其内ニテモ本縣ニテハ異型Ⅰノ檢出高度ナリ。從テ流行ハ該菌型ニ因ルモノ多シ、即チ昭和8年夏縣下三浦郡西浦村ニ於ケル流行、昨春川崎市ニ於ケル爆發の大流行ノ如キ之レナリ、警視廳ニ於テモ井口、大坪、神野氏等ハ異型Ⅰニ因ル流行ノ多キヲ唱導セリ、即チ菌型ノ變遷アル事實ハ亦興味アル事柄ナリトス。

結 論

余ガ小著ヲ敢テモノシタル理由ハ既ニ緒言ニ述ベタルガ如クナルガ腸内病原細菌保有者ノ相當多數ナルヲ知ル時吾人防疫ニ携ハルモノハ驚ヲナスト同時ニ保菌者ニ對スル所置ニ由リテモ大ニ研究ヲ要スル所ナリ、余ハ余ノ檢査方法並ニ材料採集ニ關シテ既述セルガ如キヲ以テ、ヨリ新鮮ナルモノヲ採取シ、ヨリ檢査方法ニ最善ヲ儘ス時ハ其檢出率ハコレ以上高率ニアル事ハ勿論ナルベシ。

脱稿ニ臨ミテ激勵御鞭撻ヲ賜リタル衛生課長根岸博士並ニ御指導御校閲ヲ忝フセル本試驗場長渡邊博士ニ深甚ノ謝意ヲ表シ、又本試驗場諸員ノ御援助ヲ深謝ス。

文 献

- 1) 神野花輪、東京醫事新誌、第57卷、第2825號、昭8年4月。
- 2) 村島、東京醫事新誌、第2966號、昭11年1月。
- 3) 大坪、井口、神野、日本傳染病學會雜誌、昭11年2月。
- 4) 井口、大坪、神野、東京醫事新誌、第2998號、昭11年9月。